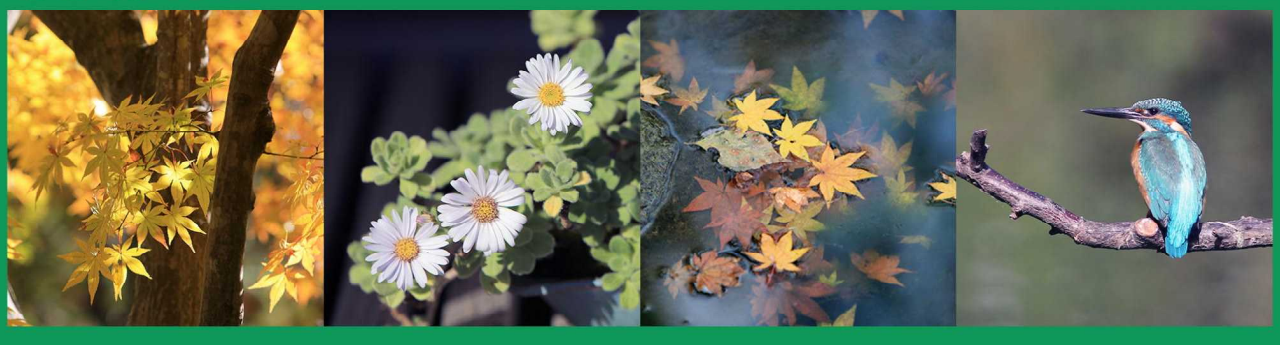
http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.290　13/11/20



一人で起きる

先週から「遅刻を無くそう」と言うことを訴えてきたが、微量？ではありながらその効果が出ているような気もする。「遅刻を無くそう」には、当然のことながら主な対象者が想定されているわけだが、その何人かが、朝のホームルームの時に顔を見せることがあったからである。ただし、「顔を見せることがあった」のであって、それが恒常化していないのは大きな問題である。

以前書いたように、私は遅刻を個人の問題としては捉えていない。クラスの問題として捉えている。遅刻した生徒に対して先生の気が散った１分が、説諭した１分が、積もり積もって１週間で５分に、一ヶ月では約30分近くになるとしたら、その間にもっと別の「生産的なこと」ができたはずだからである。そして、その悪影響を最も被っているのが、ちゃんと時間通りに自らを律して、しっかりやろうと努力している諸君だからである。まじめにやっている諸君が損をするというのでは、来年の終わりのイイ結果など望むべくもないだろう。担任が心配するのは、そういうことなのである。そこをぜひ理解して、遅刻をしてしまいがちな諸君は、しっかり生活を改善してもらいたい。

＊

ところで、遅刻してくる人は、

「朝、起きられない」

わけだろうが、それはつまり、

「朝、起こしていただいている」

（←謙譲語、敬意の対象＝起こす人）

という状況と連動しているに違いない。つまり、遅刻する人に共通するのは、

「朝、自分では起きられない」

ということなのである。それにも関わらず、

「朝、起こして下さる人」

（←尊敬語、敬意の対象＝起こす人）

つまり、おかーさんやおとーさん、おばーちゃんやおじーちゃんに対して、言うことを聞かなかったり、駄々をこねたり、ひどい場合は暴言を吐いてケンカになったりしているのではないだろうか。理性的に筋道を立てて考えれば、自分の朝の態度に言い訳の余地がないことは明らかだと思うがどうだろう？

確かに「朝、起こされて」イイ気分のはずがない。しかし、それ以上に、「朝、起こす」方だって大変なのである。遅刻したら大変だろうとか、先生に怒られるのではないかとか、進級できなくなるのではないかと心配なさって、嫌な作業を毎朝続けているに違いない。そこをきちんと認識すべきである。

＊

学校生活を続ける（しかも人に迷惑をかけない）という前提で、嫌な思いをしないで済ますにはどうしたらよいのか？　理論的には一つしか方法はない。「自分で起きる」である。極めて簡単な結論である。

よって、遅刻する人の課題は「自分で起きられるようになる」ということに尽きる。大学生として親元を離れることを考えている人もいるだろうし、社会人として独立する日もやってくるだろう。自分で起きるというのは、生きていく上でやはりキチンとできなければいけないことなのである。寒いこの時期だからこそ、ぜひ挑戦してほしい。そしてその習慣を、今後の受験勉強に結びつけてほしい。